

大分市総合計画第2次基本計画検討委員会 第2回 総務部会 議事録

◆ 日 時 令和元年8月26日(月) 10:00～11:20

◆ 場 所 大分市役所 議会棟3階 第3委員会室

◆ 出席者

【委員】

足立 省三、有松 一郎、川野 恭輔、島岡 成治、森高 美代子(計5名)

【事務局】

企画課長 小野 晃正、同主査 上杉 幸喜、同主査 朝吹 嘉友、同主事 土公 厚湖
(計4名)

【プロジェクトチーム】

総務課主任 船石 侑甫、財政課主査 佐藤 真人、
税制課主査 川元 翔、議会議事課主査 安田 真一(計4名)

【オブザーバー】

なし

【傍聴者】

なし

◆ 次 第

1. 開 会
2. 議 事
 - (1)大分市人口ビジョンについて
 - (2)第2期大分市総合戦略(素案)について
 - (3)その他

<第2回 総務部会>

事務局	皆様おはようございます。本日はお足元の悪い中お集りいただきまして、ありがとうございます。 ただいまから、大分市総合計画第2次基本計画検討委員会第2回総務部会を開催いたします。 まず、開会に当たりまして、本日、池邊委員、倉掛委員がご欠席ということでご連絡をいただいておりますので、ご報告申し上げます。また、荒金委員に
-----	---

つきましては、到着が遅れているようですので、途中から参加していただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、会議に先立ちまして、事務局のほうから事務連絡を1点と資料の確認をさせていただきたいと思っております。

本日、机上配付させていただいております資料についてですが、まず、A4の次第と本日の配席図、そして、総務部会の日程調整表、それとあわせまして、総合計画の部会での意見及びこれに対する市の考え方の様式、4枚を置かせていただいております。

また、こちらの検討委員会での意見及びこれに対する市の考え方等の様式についてでございますが、本日の部会以降、皆様からいただいた意見に対する市の考え方等をこの様式にまとめさせていただこうと思っております。本日は白紙ですが、参考までにお配りさせていただきましたので、今後、いただいたご意見をこの様式にまとめながら、ご説明の資料として、また、素案や提言書に反映をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

また、先日、委員の皆様へ郵送でお送りいたしました総合戦略や総合ビジョン概要版についての資料は本日お持ちでしょうか。もしなければ、こちらで予備をお持ちしておりますが、よろしいですかね。ありがとうございます。

また、1点、事務連絡ですが、本検討委員会の公開についてでございます。本市におきましては、市民の市政に対する理解と関心を高めて開かれた市政を推進するため、こういった各種会議については公開で行っております。本検討委員会も、広く市民の方に意見をいただきたいという観点から、会議の公開と傍聴を行っていきたくて考えております。本日は記者さんも傍聴の方もいらっしゃいませんけれども、議事としては録音させていただきまして、後日、ホームページのほうで公開をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、早速議事に入りたいと思います。本日は、総合計画の基本計画の総論の前に、大分市の人口ビジョンと第2期大分市総合戦略について、さまざまなお意見等いただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、議事の進行につきましては、検討委員会設置要綱第7条第4項の規定に基づきまして、部会長の島岡先生のほうにお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

部会長

今日はお足元の悪い中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

それでは早速、本日は大分市の人口ビジョンと第2期大分市総合戦略について、事務局のほうからの説明後、皆様のご意見をお伺いしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、座って、議事進行させていただきたいと思っております。

それでは、次第に従いまして、まず、議事(1)の大分市人口ビジョンについて、事務局のほうから説明をお願いいたします。

事務局

おはようございます。座って説明させていただきます。

それでは、こちらの大分市人口ビジョンと書かれた資料をごらんください。

こちらは、平成28年に作成した大分市人口ビジョンに直近のデータを加え

るなど、現時点における時点修正を行ったものでございます。

1枚めくっていただきまして、目次をごらんください。

大分市人口ビジョンは、人口ビジョンの位置づけ、対象期間など、大きく4部構成としております。

それでは、1ページをごらんください。

人口ビジョンの位置づけ、対象期間です。大分市人口ビジョンは、大分市総合計画を策定するに当たり、本市における人口の現状を分析し、今後目指すべき将来の方向性と人口の将来を展望するものであり、まち・ひと・しごと創生の実現に向けた重要な基礎となるものと位置づけます。また、総合計画の策定に当たりましても同様に、重要な基礎となるものでございます。

対象期間ですが、国の長期ビジョンの期間を踏まえ、2060年としております。

続きまして、2ページをごらんください。

大分市の人口の現状分析です。最初に、人口の推移と世帯数、1世帯当たりの世帯人員の推移です。国が2008年、大分県が1985年をピークに人口減少に転じている中、大分市の人口はわずかではありますが増え続けておりましたが、その下のグラフにありますように、2016年をピークに人口減少局面に入っております。

次に、4ページをごらんください。

人口動態についてですが、出生や死亡からなる自然動態と、大分市への転入と大分市からの転出からなる社会動態の二つの推移を記載しております。

最初に、自然動態ですが、出生数は1973年をピークに減少し、近年ではほぼ横ばいの状態となっておりますが、死亡数は年々増加しており、2017年には出生数を上回り、自然動態は減少に転じております。

次に、社会動態については、転入超過が続いておりましたが、2014年、2018年と転出者が転入者を上回り、転出超過となっております。

次に、5ページは大分市と県内市町村との人口移動の状況で、転出者、転入者ともに別府市が最も多い状況です。

次に、6ページをごらんください。

大分市と県外との人口の移動の状況で、転出者、転入者ともに福岡県が最も多く、また、国外からの転入者が大きく増えており、転入者が転出者を上回っております。

続いて7ページは年齢階級別の人口移動の状況で、転入者は60歳以上が多くなっており、転出者では20歳から24歳が多い状況です。

続きまして、8ページをごらんください。

出生数と合計特殊出生率の推移です。大分市の出生数は、2006年以降、約4,500人前後で推移してございましたが、近年では減少傾向にあります。また、合計特殊出生率は、2005年の1.33以降、上昇傾向にあり、2017年には1.58となっております。

次に、9ページは婚姻数、婚姻率、離婚数、離婚率の推移です。婚姻数、離婚数ともに増減を繰り返しながら、全体的には減少傾向にございます。

続いて、10ページをごらんください。

こちらは未婚率の推移です。本市の未婚率は一貫して上昇を続けておりまし

たが、近年では男性、女性ともに20歳から34歳の未婚率は減少しております。

次に、11ページは平均寿命と健康寿命です。本市の平均寿命は年々伸びており、2015年では男性が81.43年、女性が87.36年となっております。また、2015年の本市の男性の健康寿命は79.72年、女性は83.96年となっており、若干の増減はありますが、こちらも年々伸びている状況でございます。

続いて、13ページをごらんください。

大分市の将来人口の推計です。2015年の国勢調査を基本とし、国立社会保障・人口問題研究所、いわゆる社人研と言われるところの数値を用い、将来人口を推計しております。社人研の推計によりますと、このままの状況で人口が推移していけば、2045年には大分市の人口は43.4万人となり、2015年比で4.4万人減少すると予測されております。また、生産年齢人口は減少、老年人口は増加し、高齢化率はおよそ36%に達すると予測されております。

次に、15ページをごらんください。

こちらは地域別の人口の推移で、2015年を基本とし、2025年、2035年、2045年における人口の増減率をあらわしております。大分地区、大南地区、植田地区、佐賀関地区、野津原地区、明野地区では人口が減少する一方で、鶴崎地区、大在地区、坂ノ市地区では増加するというふうに考えられております。

続いて、16ページから20ページまでは、地区ごとの人口推計をあらわしております。

それでは、21ページをごらんください。

目指すべき将来の方向です。基本的視点ですが、人口減少への対応は二つの方向性が考えられます。一つが、出生数を増加させ、人口構造そのものを変えるということ、もう一つは、首都圏への転出者の抑制と地方への転入者の増加を図る。この二つの対応を同時に進めていくことが重要となり、自然増と社会増の両面から人口減少問題に取り組み、人口減少のカーブをできる限り緩やかにしていきます。

次に、人口の将来展望です。国においては、2030年までに合計特殊出生率を1.8程度、2040年には人口置換水準である2.06程度まで回復した場合、2060年の人口が1億人程度確保できると見込んでおります。

大分県においては、2030年までに合計特殊出生率を2.0程度、2040年には2.3程度までに高め、さらには大分県外から社人研推計に加え毎年1,000人程度の社会増の上乗せを図ることにより、2060年の人口がおよそ96万人となり、2100年には100万人近くまで回復していくとしております。

続いて、22ページをごらんください。

本市の将来展望につきましては、自然増については、大分県の合計特殊出生率を踏まえ、2030年までに合計特殊出生率を2.0程度、2040年には2.3程度にまで高めることとしております。社会増につきましては、県外からの転入者を増やすことを目指しております。

このように、自然増の対策と社会増の対策に取り組むことにより、2060

	<p>年の大分市の人口45万人程度を目指すこととしております。</p> <p>なお、国における人口ビジョンについては、前回の推計から大きく乖離しないことから見直しを行わず、国においても時点修正など必要な検討を行うとしております。また、本市においては、国が人口ビジョンの見直しを行わないことや、こちらの青色の折れ線グラフにありますように、前回の社人研の推計よりも上振れしていることなどからも、引き続き2060年に人口45万人を目指すこととしております。</p> <p>大分市人口ビジョンの説明は以上でございます。</p>
部会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、委員の皆様、何かご質問、ご意見はございますか。どなたかございませんでしょうか。</p> <p>どうぞ。</p>
委員	<p>最後の結論的なところになるのですが、21ページに目指すべき将来の方向とありますが、この中には大分市がどうするといったことがあまり書かれてない。15ページを見ても、30年後は大分市東部のほうが3地域とも増えるということですが、はっきり言えば、どういった理由があるからかというのも見えるような気がするのですが、そういったところにはそのように何か書く方法はないのでしょうか。</p> <p>それから、5つの地域は減るといように書かれているが、これをなるべく緩やかにするためにはどうするのかといった方策といいますか、方法論がほんの数行でも書かれているのが将来ビジョンではないかなという気もするのですけれども、そういったことは難しいのでしょうか。</p>
部会長	<p>事務局、そのあたりはいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございました。人口ビジョンは人口動態のみに特化した形になっております。先ほど言われました東部地区のほうは、工業集積地帯でございます。また、区画整理の基盤ができている場所でございます、人口が今の段階でも少し伸びているところでございます。</p> <p>それ以外は、市全体として全体的に人口減少になるということから、大きな大分市としての目標を最終ページのほうに書かせていただいております。</p> <p>その他の人口増に向けての施策に関しては、この後、説明させていただく総合戦略と、今回この総務部会でも議論していただくのですけれども、総合計画の中で大きな方向性をもって打ち出していきたいと考えております。</p> <p>ただ、総合計画では42の施策がありますが、その下に個別計画がございます。福祉は福祉に特化した部分、子育ては子育ての部分、まちづくりは都市計画の部分などございまして、それらは他の部会でもご議論していただいておりますので、何か特化した部分のご意見がありましたら、それは他の部会にもお伝えしながら進めさせていただきたいと思っております。</p> <p>こちらはあくまで人口動態に特化した、今後の大分市としてどこを目指すかということをごまめさせていただいた部分であります。</p>

委員	数字を書いているということですね。
事務局	<p>そうですね。個別の地域をどうしていくということに関しては、個別計画や現在、市民の皆さんと「地域まちづくりビジョン」というのを13地区で進めさせていただいております。その中で、市民との対話によって、地域全体をどうしていくかということを進めさせていただきたいと考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
部会長	よろしいでしょうか。
委員	はい。わかりました。
部会長	あくまでもこの人口ビジョンに関しましては、人口のみを推計といたしますか、想定と大きな方向性を定めて、具体的には、先ほども説明されましたように、総合計画だとか総合戦略等で、どうするかということはこれを受けて議論していくということだと思います。
委員	はい。ありがとうございました。
部会長	ほかにございますか。
委員	<p>すみません、しつこいようですが「とは言え」という部分で少し。</p> <p>この自然増の部分に関しては、結婚、妊娠、出産、子育ての希望の実現などが入っているわけですね。そうすると、これから後々、政策提言に変えていくということになると、人口ビジョンにある程度の方向性などを記載しておかないと、将来の人口をどう増やしていくかという話がちょっと切り離されがちになりはしないかと。</p> <p>例えば子供の教育ですね。いかに地域愛を育てるかとか、将来的にこの大分市に帰ってこようというような教育を実現しておくことが、将来の人口ビジョンに対して重要な役割を果たすかとかいう視点とかも、本来ここに記載があれば、この後の具体的な政策提言の中で生かしやすいということになりはしないかと。むしろ割り切るのであればもう割り切った表現にして、ほんとうに客観的に、このままでいったらこういう推計になりますよというぐらいに割り切っておくか、あるいは後々の政策提言に落とし込みたいようなキーワードをピックアップして総合的にとりあえず入れとくか。何かその辺の選択は必要なのかなと思ったのですが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。実は、この後の総合戦略の中では、この四本の柱の中で、大分市のこれからの教育のことも触れさせていただいております。実は、この総合計画の改訂にあわせて教育委員会のほうでも、「教育ビジョン」という大分市の教育に関する最上位計画の改訂をしております。総合計画の教育・文化部会と意見の交換をしながら、大分市のこれからの教育についての議論を深</p>

	<p>めさせていただきます。</p> <p>先ほども申しましたように、人口動態に特化しているとは言え、合計特殊出生率を考えないと予測ができないものですから、その部分についてということで記載させていただいているのが現状でございます。</p> <p>あくまでも人口動態に特化した部分と、これからの人口減少をカバーしていくために進めていく総合戦略という形ですね。また、最上位は総合計画でございます。総合計画の下には、先ほども申しましたとおり、教育の部分があり、子育ての部分があり、福祉の部分があり、まちづくりの都市計画の部分があり、それぞれの施策を議論いただいているところです。</p> <p>以上でございます。</p>
部会長	<p>よろしいでしょうか。</p>
委員	<p>はい。</p>
委員	<p>いただいた資料の中の6ページと最後の方向性のところですが、このグラフを見させていただくと、大分市も大分県全体でもそうなのですが、今、福岡方面への若者の流出が圧倒的に多くなっています。年代に限らず、これで見ますと、関東圏、東京、神奈川を合わせても、福岡のほうへの転出超過のほうが多くなっている状況で、そのあたりも方向性の中に福岡をターゲットにした視点を入れた方が良いのでは。おそらく若い人たちが福岡に行くのは、大学、短大、専門学校が福岡に集中していて、割と近いので行きやすいというのもあるみたいなのですね。魅力的な学科もある。</p> <p>しかし、その後、若い人たちが帰ってきてくれているのじゃないかということも大きな要因として、県としては見ているところなのではけれども。多分、大分市さんも同じ状況が見られるのではないかなと思います。</p> <p>このグラフとその後ろの部分などに、現状はもしかしたら若干ずれが出てきているかもしれないので、方向性の中に首都圏中心とは書いているのですけれども、このような点に対してどのように戦略を練っていくのか、今後、その点も少し考えてみてほしいのかなと思いました。</p>
部会長	<p>文言として、「東京圏を中心とした大都市」というところに、福岡というのを入れるかかどうかということですね。</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございました。確かにここ近年、福岡のほうへの転出が大変多くなっております。個別にデータの分析はなかなかできないのですけれども、いろいろな方からお聞きする中では、今すごく福岡のまちが拡張しているのですよね。その辺もあって、九州全域から福岡のほうに人口が集中しているという現状がここ数年ずっと続いております。人口ビジョンの最終的な表現のところも、首都圏だけでなく、今はもう福岡のほうも大変大きな都市になっていますので、そのあたりの変更も検討していきたいと思っております。よろしく申し上げます。</p>

部会長	<p>ありがとうございました。 ほかにございませんでしょうか。</p>
委員	<p>私のほうからは3点ほどです。</p> <p>1点目は、今、委員のほうからお話があった件なのですけれども、どちらかというと、東京圏よりも福岡県への人口流出の部分というのと、あと、中でも女性ですね。基本的に男性は戻ってきているのですけれども、女性が非常に戻ってきていないというところがあります。女性の就職の場というのが大分にはなかなかないというところもあるかもしれませんけれども、そのような印象を持っています。だいたい前に調査したので現状はどうなっているかわかりませんが。</p> <p>別にこれに記載するということではないかと思うのですけれども、総合戦略などを作られる中で、そのような対策や視点も必要かなというところがまず1点目です。</p> <p>2点目は、これは内容というよりは、地区別で自己推計されているかと思うのですけれども、これは地区ごとに出生率とか移動率とかをそれぞれの地区に出しているのか、それとも一律で、例えば大分市の出生率と移動率を持ってきているのかというところを個人的にお聞きしたいというだけです。</p> <p>あと3点目が、これも細かい話になりますが、言葉の使い方の話にはなるのですけれども、例えば10ページの未婚率のところ、「本市の未婚率は一貫して上昇を続けていきましたが、近年、男性、女性とも20～34歳の未婚率は減少しています。」というふうに書かれています。私どもも調査結果を書くときには実数は増加・減少で書き、率、割合は上昇・低下というふうな記載を大体しています。ほかのところを見ると、大体、率も減少とは書いているのですけれども、この10ページのところだけ、増加と書かずに上昇と書いているので、どちらかにこれは統一したほうがいいのじゃないかなと思います。</p> <p>以上です。</p>
事務局	<p>1点目の女性がなかなか一度県外に出られると戻ってこないというのは、一般的に統計データでも示されておりまして、やっぱり今後、大分も女性が働ける場をもう少し作っていかないといけないと、前回の総合戦略のときにも議論されているところがございます。後ほどご説明しますが、今回の総合戦略の中でそういったところが少しでもできれば、やはり人口をある程度維持するためには女性の方の活躍が必要だとは考えておりますので、そのあたりも盛り込んでいければと考えております。</p> <p>2点目の地区別に関しましては、あくまでも大分市のベースを13地区に割っておりますので、そのあたりの動きは一律で考えているところがございます。なかなか地区別に出すのは難しいのですけれども、一応、大分市としては、前回のときも、地区別を出さないと人口減少のイメージが湧かないだろうと。やはり、佐賀関、野津原、それと人口が少し伸びている東部と中心部の明野とか、そういうところで事情が少し違います。特に植田のほうは住宅団地が造成されてから40～50年経ち、世代も一巡し、人口の維持が難しいところもございます。そのような地域特性や特徴がございますので、今回も地区別の人口の推</p>

	<p>移を記載させていただきました。</p> <p>それと3点目の文言のところも、確かに率と実数というところで、ちょっとわかりにくいところは事務局のほうで統一して、文言を修正させていただきましたと考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>部会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>ほかにございませんでしょうか。</p> <p>私からですが、これも内容とかビジョンそのものの書き方の問題ではないのですけれども、すごく気になったのは、結論として、自然増と社会増のそれぞれに対策が必要だということ。それを具体的に総合戦略や総合計画で練っていくことになると思うのですけれども、現状を見たときに、7ページに年齢階級の人口移動の状況というのがあるんですね。</p> <p>これを見ると、文章としては60歳以上の転入者が多いと書いているのですが、もう一つ、比較的多いのが30～39歳ということになっています。これはちょっと増減があったりしますけれども、2014年からずっとプラスになっています。30歳から39歳あたりでUターンして大分に帰ってきているのか。60歳以上であれば、定年を迎えて故郷に帰ってくるというイメージが湧くのですけれども、この30歳から39歳のグラフのグリーンの部分が2018年はそうでもないのですけれども、2015年などを見ますと、ブルーの25歳から29歳もちょっとあるんですよ。このあたりはどういう形で転入してきているのか。そこがこれから社会増を考えると一つの大事な何かポイントにならないかなと、このグラフを見てふと思いました。</p> <p>いわゆる定年退職した人ではない、労働世代の若い人たちが転入してきているわけですから、その人たちがどういうふうな形で転入してきていて、今後、さらにそれを増やしていく可能性みたいなものはないのか、このグラフを見て思ったんですけれども、そういう分析はできるのですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>なかなか細かい分析は、転入時にアンケート調査などをしないとわからないと思うのですけれども、今、良く言われているのが30歳から39歳というのは、マイホームを建てるなど住宅取得をする世代でございます。近隣の市町村から強く言われているのですけれども、特に臼杵市や豊後大野市から言われているのですが、その年代の方たちが転出して大分市で住居を設けられていると、周辺市町村のほうの分析として言われております。それは周辺市町村のほうの実数をつかまえやすいので、どうして転出されることになったのかということを確認している中ではそのようになっています。</p> <p>ただ、その値も下がってきていると周辺の市町村からも聞きますが、実際は周辺市町村の若い世代の人口自体が少なくなってきていると。若い25歳から39歳までの家庭を持って住居を持とうかという世代がそもそも周辺市町村も少なくなってきたと。これは県全体の課題でございます。大分市へ周辺部から人口移動があったとしても、なかなか県全体として人口は増えていかないという課題でございます。</p> <p>それとあと一つが大分市は企業の集積がございますので、お子さんが小学生</p>

	<p>以上で大分市勤務になると、そのまま大分市に住居を求められる方がいるという状況があります。その2点が25歳から39歳までの人口移動の要因となっているようです。</p> <p>ただ、現在、お子さんが2人、3人いらっしゃる家庭が少ないので、お子さんたちの人口増にはちょっと結びついてないというふうな話がございます。ここも今後の総合戦略の中では少し分析をしながら、大分県外からの移住をできるだけ打ち出して行って、安定的にこれからの社会の基盤を担う方々の人口流入の施策を打ち出せるかなとは考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
部会長	<p>ありがとうございました。</p>
委員	<p>私もちょっとわからなかったのですが、県内からの流入であると、あんまり全体としては効果的ではないですね。</p>
事務局	<p>そうですね。</p>
委員	<p>ありがとうございました。</p>
委員	<p>補足させていただくと、今までは大分市がダムの役割を果たしていただいていたと県全体では見ておりました。ただ、それも福岡方面への転出が多くなってきているなど、だんだんその機能が弱くなっているかなと。大分市自体の人口が減ってきている状況になっている。</p> <p>今まで言われているように、特に坂ノ市地区、大在地区にどんどん新しいおうち、アパートが建っています。そこに入ってこられる方が佐賀関や臼杵市、津久見市、また、飛び越えて佐伯市の方もいらっしゃるという状況で、ちょうど勤務地と、街に遊びに行く、または、子供たちが通う学校、その中間点に家を建てるというのが臼杵市や津久見市の方々の最近の傾向だったようです。</p> <p>そういう状況でございます。</p>
部会長	<p>ありがとうございます。大変勉強になりました。</p>
委員	<p>ちょっと付随した話かなと思うのですが、先ほど区画整理をしたところに人が集まるという話があったが、これは当たり前といえば当たり前なのでしょうけれども、そういった見方も必要になってくるのじゃないかと。</p> <p>大分市でも地方部においては、区画整理がされていない従来のままだという地域がり、そのような点も少し目をつける方向性ではあるのかなと思いました。</p>
部会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ほかにいいでしょうか。大分市の人口ビジョンに関してのご質問、ご意見はもうよろしいでしょうか。</p> <p>(なしの声)</p>

部会長	<p>それでは、これ以上ご質問がないようですので、事務局に本件の整理を求めたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>本日いただいた意見につきましては、先ほどの様式にまとめさせていただきます。次回の会議のときにまたお配りをしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p>
部会長	<p>じゃあ、次の会議のときに、本日皆さんからいただいたご意見をまた見ていただきたいと思います。</p> <p>それでは、よろしければ、次、議題2の第2期大分市総合戦略について、説明を事務局からお願いしたいと思います。</p>
事務局	<p>それでは、引き続きまして、総合戦略について説明させていただきます。</p> <p>それでは、第2期大分市総合戦略素案と書かれたA4の資料をごらんください。</p> <p>ページをめくっていただきまして、1ページをごらんください。</p> <p>まず、総合戦略策定の趣旨についてでございます。少子高齢化が進み、人口減少社会を迎える中、国では地方創生を重要政策として掲げ、人口減少を克服し、各地域の特徴を生かした自律的で持続可能な社会を創造する取り組みが進められております。</p> <p>本市においても、ついに人口が減少局面に入っている中、地方創生の実現に向けた切れ目ない取り組みが求められていることから、地方創生のより一層の充実・強化に向け取り組むため、第2期総合戦略を策定するものです。</p> <p>続きまして、総合戦略の位置づけでございます。まち・ひと・しごと創生法に基づき策定するもので、大分市人口ビジョンでは、2060年に45万人を目指すこととしておりますが、この人口ビジョンを実現するための目標や施策等を取りまとめるものです。</p> <p>対象期間につきましては、2020年度から2024年度までの5年間としております。</p> <p>次に、大分市総合計画と大分市総合戦略との関係についてご説明いたします。こちらにつきましては、以前お配りしておりましたA3の資料2と書かれたカラー刷りの資料をごらんください。</p> <p>大分市総合計画は本市の最上位計画となり、総合戦略は個別計画という位置づけとなります。しかしながら、総合戦略は人口減少対策等に優先的かつ重点的に取り組み、将来の大分市が自立的で持続可能なまちであり続けるための計画となり、また、さまざまな分野に関連しますことから、大分市が目指すまちの姿に大きく寄与する重要な計画となるものと考えております。</p> <p>総合戦略の策定に当たりましては、資料右下の黄色の矢印のところになりますが、総合計画の各施策の内容と整合性を図りながら策定するとともに、また、その矢印の先にありますように、国や県の総合戦略を勘案する必要もございません。</p> <p>続きまして、A3カラーの第2期大分市総合戦略素案の概要と書かれた資料</p>

をごらんください。

まず、素案作成の考え方ですが、先ほどもご説明しましたとおり、大分市総合計画の中から、人口減少の克服や地方創生に直接つながり、かつ、優先的、重点的に取り組むものを抽出しております。また、国の総合戦略の基本方針2019で示されました未来技術や人材育成、誰もが活躍できる地域社会といった六つの新たな視点を勘案しております。

次に、素案の概要でございますが、基本目標を四つ掲げており、一つ目は「しごととにぎわいをつくる」、二つ目は「人を大切にし、次代を担う若者を育てる」、三つ目は「いつまでも住み続けたいまちをつくる」、四つ目は「安全・安心なくらしを守り、未来をつくる」としており、この基本目標の達成に向けて、特に重要な指標として、企業誘致件数や観光宿泊件数、合計特殊出生率や待機児童数といった数値目標を設けております。

また、その右側になります。四つの基本目標の下には、工業、商業、サービス業の振興や農林水産業の振興といった基本的な施策により構成されており、基本目標の達成に向け、それぞれの施策に取り組むこととしております。

現在、国においても第2期の総合戦略の策定を進めており、現行の四つの基本目標などの枠組みは引き続き維持することとされておりますので、本市の第2期総合戦略においても、四つの基本目標などの枠組みは引き続き維持することとしております。

ここで、委員の皆様、こちらの大分市総合戦略について、どのようなご議論していただくかということについてご説明いたします。

こちらの総務部会以外の各部会においては、大分市総合計画素案の各論を議論していただく中、総合戦略に関する内容につきましては、地方創生を実現するという観点を考慮していただき、ご意見をいただくように考えております。

具体的には、一つ目の基本目標の「しごととにぎわいをつくる」という部分には、資料の表の右側に、関連部会と記載とございます産業部会と都市基盤部会において総合計画の各論を議論していただく際に、地方創生を実現するという観点を考慮していただき、ご意見等いただくように考えております。

この総務部会につきましては、大分市総合計画素案の各論部分が担当ではありませんので、四つの基本目標と総合戦略全般についてご議論していただきたいと考えております。

次に、大分市総合戦略進捗状況一覧と書かれたA4の資料をごらんください。こちらは、現行の大分市総合戦略の各指標の進捗状況をまとめたものです。表は、左から指標名、現状値、進捗状況、目標値となっております。

一つ目の基本目標の「しごととにぎわいをつくる」の数値目標である誘致企業件数は、目標値28件に対し57件。小売商業の年間商品販売額は、目標値5,000億円に対して5,551億円。観光宿泊客数は、目標値88万人に対して99万8,330人となっております。

次に、1枚めくっていただきまして、二つ目の基本目標の「人を大切にし、次代を担う若者を育てる」の数値目標であります合計特殊出生率は、目標値1.62に対して1.58。保育施設利用待機児童数は、目標値ゼロ人に対して25人となっております。

次に、もう1枚めくっていただきまして、三つ目の基本目標の「いつまでも

	<p>住み続けたいまちをつくる」の数値目標であります県外への転出者と県外からの転入者の均衡を目指すでは、目標値プラスマイナスゼロに対して、県外への転出者が1,249人多い状況となっております。</p> <p>それでは、最後のページをお願いします。</p> <p>四つ目の基本目標の「安全・安心な暮らしを守り、未来をつくる」の数値目標でございます防災訓練を実施した自主防災組織数は、目標値、全自主防災組織に対して443組織。広域連携事業数については、目標値50事業に対して43事業となっております。</p> <p>なお、指標名のところに薄いピンクで網掛けをしているものは、総合計画にはない総合戦略独自の指標となっております。</p> <p>説明は以上でございます。</p>
部会長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>それでは、何か皆様のほうからご質問、ご意見ございませんでしょうか。</p>
委員	<p>最後の40数ページまで、1番からずっと不明な点を聞いていっていいのでしょうか。</p>
部会長	<p>はい。もしご質問があれば。</p>
委員	<p>それでは、まず1ページ目の1番下ですね、1番下の「K P I」の「※」に説明が次のページについておりますが、その他に「※」が4カ所ほど残っておりますが、それは要らないのかなと思います。</p> <p>それから4ページ目、表の中の上から2番目「創業件数」とありますが、そこが175人となっているのですね。創業件数とあるので、175件という表示のほうが良いのではないかと思います。</p> <p>それから5ページですが、中央町・府内町間を往来する通行量とあります。この単位が一月なのか、まあ一日にこんなになんと思うのですけれども、単位を27,946人と書いていますが、一日であれば、斜め線を引いて「日」とかいう単位を入れたほうが読みやすいかと思います。</p> <p>それから、14ページの4番「ICTの利活用」の「①安心して健やかに暮らせる市民生活の実現」の中の黒い点の2つが一部重複しているのじゃないかと思うのですが、そのあたりはどうなのかなと。</p> <p>これを一行で終わらせたくないという話であれば、28年3月度版の17ページの①に同じ項目があるわけで、「ICTの利活用」「安心して健やかに暮らせる市民生活の実現」という同じ項目の中に2つありますので、これを一つにするといったようなことも考えられていいのかなと思います。</p> <p>それから、18ページに「豊かな人間性の創造」の真ん中あたりに「体力の向上と健康の保持増進を図ります」から「歯と口の健康づくりの推進を図ります」。これはどちらかというと、教科教育じゃなくて健康面の教育に当たるのですが、これはこの位置にあるのがふさわしいのか、かえって、この項目の一番下に持っていくのがふさわしいのか。この辺も、私は質問させていただきたいと思います。</p>

	<p>それから文字の書き方で恐縮ですが、24ページの2行目「健康寿命の延伸に向け一人一人が」と書いてありますが、通常「一人」と書いたら、次の「ひとり」は平仮名というケースが多いように見受けられます。</p> <p>それから、次に26ページ「健康危機」という言葉は、従来、あまり聞いたことがないのですけれども、その行の後ろに警察、消防とも書いてあるものですから、むしろどうなのでしょう。「健康危機」ぐらいに文章としてはとどめておいていいのか、この危ない世の中になりつつありますので、健康や人命危機と書いてしまうと、ちょっと文章が強すぎるのかなとは思いますが、そういうことも感じました。</p> <p>それから、41ページ「①消防体制の充実」の2つめの黒点「消防団の充実を図るため～人材確保に努めます。」というのと、3つめの黒点「消防団の強化を図るため～訓練と研修の充実に努めます。」という文言。順番的には上下入れかえのほうがおさまるのかなと。私の感想です、これは。</p> <p>以上で46ページまでいきました。いろいろ申しましたが、私の感想みたいなことばかりですので、よろしく検討といえますか、参考といえますか。</p>
<p>部会長</p>	<p>文言とか表現につきましては、私もほかにも気づいたことがありますので、それはまた機会があったときにしてもらいますね。</p> <p>ほかに。基本的に、この部会においては、全体的な方向性ということに関して、それぞれ大分市総合戦略というのが基本目標として一から四まで掲げられていますが、具体的内容につきましては、もちろん全体から見たときに、それぞれに何かご意見があればご指摘いただければと思いますし、あるいは全体的なつくり方としてのご意見も含めて、皆さんございましたらご意見いただけますか。</p>
<p>委員</p>	<p>質問なのですが、率直に、この合計特殊出生率の数値ですね。現状が1.58ということで、そもそも現状値からするとむしろ下がっていて、5年後には1.62と。令和元年の見込みでこうなっているということなんですが、人口ビジョンのほうにうたった数値を実現していこうというときに、全体の総合戦略の中でこの合計特殊出生率、ほんとうにきちんと数字が出ていくのかということと今、率直に全体像として教えていただきたい。</p> <p>あともう一つ、今回、新しい視点の追加ということが当初の総合計画素案の概要のところでご説明がありましたが、この総合戦略のほうに新しい視点というのが数値目標的にどのように入ってきているのかをもう少し個別にご説明していただいてもいいかなと。幾つか取り上げて、こんなふうに盛り込んでいますと。文言は一緒なのですけれども、考え方としてこういうもの入れていますとか。その辺をもう少し教えていただいてもいいですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>順番が前後しますが、新たな視点の部分ですね。先ほどのこちらのA3の概要の黄色い部分が主な追加、変更点となっており、こちらの中に、一つ目の「しごととにぎわいをつくる」といった部分では、IT、ドローン、自動走行分野などの新製品、新技術の開発につながる産業の支援といった部分や企業活動の活性化に合う人材育成。また、事業継承の支援。外国人材の適正、円滑な受け</p>

	<p>入れに向けた取り組みといった部分が主な修正点でございます、国の示されました視点等を勘案する中で、総合計画の変更部分とも重なるのですけれども、こういった部分に変更した箇所でございます。</p>
委員	<p>K P Iとして、新たな目標数値をそれによって立てたという部分はないということよろしいのですか。</p>
事務局	<p>当然、指標自体も見直す中で変えている部分はあるのですけれども。</p>
委員	<p>今回新しく追加されたものなどがあれば、教えていただきたいという質問です。</p>
事務局	<p>今すぐこれといったものをご説明できませんので、また後日でもよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>いいです。</p>
事務局	<p>すみません。</p>
部会長	<p>よろしいでしょうか。</p>
委員	<p>いいです。もう後日で。 あと、じゃあ、その新しい視点が加わることで、例えば、1番目にお尋ねした、いわゆる人口増につながっていくカーブの変化というのを期待してよろしいということ理解しておけばいいですか。</p>
事務局	<p>合計特殊出生率に関して言えば、今回、少しまたアップした数値を目標値にさせていただいています。前回の計画よりもより高い目標値をほかの施策のところも含めて掲げさせていただいているところでございます。 今、大分市の中でもやはり第一に人口減少に立ち向かう施策を、産業も含めて、子育て施策を十分に今、立案、実施しているところでございますので、引き続き、この第2期の総合戦略に関して、そのような形で進めさせていただきたいと考えているところでございます。 以上でございます。</p>
部会長	<p>よろしいでしょうか。</p>
委員	<p>はい。</p>
部会長	<p>ほかにごございませんでしょうか。</p>
委員	<p>全般的な話になるのですけれども、最近、結構SDGsの視点というのが言われている部分があるかと思うのですけれども、入れるか入れないかとかとい</p>

<p>事務局</p>	<p>うのは別問題だとは思いますが、そういうふうなところをご検討されたことがあるかどうか、もしよろしければお聞かせ願えればと思います。</p> <p>SDGsに関しましては、17の目標で国連の決議に合わせて、今、国も内閣府のほうが進めています。もともとSDGsの流れが、環境未来都市として、エネルギーとかそういうところで持続可能なまちづくりをしましょうという大きな視点の中で進んでということで、今、SDGsのモデル事業をされている自治体もあります。</p> <p>基本的には、誰ひとりとして取り残さないとか、持続可能なまちづくりということで、議会のほうでも質問を受けております。今回の総合計画の改訂に当たりましては、その理念はもともと総合計画にビルトインされています。その特化した部分については、各個別計画の中でその1つ1つの目標に対応した形で、各種個別計画も進めているという認識で、殊さら総合計画にSDGsの文言を入れるとか、総合戦略に具体的にSDGsという名前を入れていかないようにしているところでございます。</p> <p>ただ、この総合戦略1ページにもあるのですけれども、もともとの策定の趣旨のところですが、上から5行目以降の、地域の特徴を生かした自立的、持続可能な社会を創造するというところで、一応、SDGsと軌を一にする方向は出しているところでございます。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>委員</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほど人口ビジョンのところでも少し出たのですけれども、やっぱり女性に戻ってきてほしいという視点でいくと、こういったところにこの取り組みが出されていくのかなと。</p> <p>多分、以前から入っている文言が多いのかなと思うのですけれども、大きな事業じゃないですが、今、女性をご自分で事業経営をなさる方もおりますし、新しい業種が多くなっていると思うので、そういったところをどういう形で、どういう面で支援していくのかなというのが、今、まんべんなく入っているのかなと思うのでちょっと見えにくいんですけれども、その辺の視点がもし足りなければ、入れていただくといいのかなと思うのが一つでございます。</p> <p>それから、UIJターンとかを入れていらっしゃるけれども、一つは就労の支援というところが出ています。これは就職者という表現になっていると思います。あとは農業、水産業あたりのところでも、それぞれ担い手支援というのが出てきているので、その辺でも拾っているのかなと思うのですが、今、わりと田舎暮らしと言いますか、農業をやりたいかたが多く、住むところと、それからあとは仕事を何にするかというのを選ぶと。どこかに就職するというのもあるし、自分で農業やりたいという方もいらっしゃるの、そのあたりについて。</p> <p>もしかしたら、現在は総合戦略の中にばらばらに入っているのかな。そういったところを一体で、先ほど首都圏のほうから人を引っ張ってきたいと。もしかしたら、そこは一つ項目を立てても、戦略としてではいいのかなとは思いま</p>

	<p>した。</p> <p>それから、あと、目標値のK P I、数字は見直すかもしれないですけども、項目としては変えない方向で今回はいくということですのでよろしいですかね。実は、10ページの水産業のところなのですけども、ブランド魚種の漁獲量はかなり今、厳しいんじゃないかなと思って、ちょっと実態に合わなくなっているのではないかなというのがひとつ気になったところでございます。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>部会長</p>	<p>ありがとうございました。</p>
<p>事務局</p>	<p>女性の働く場をいった視点は実はいろいろちりばめて、あまり具体化して記述しなかったですので、また検討していきたいと思います。</p> <p>女性の職場と言ってもほぼ全ての職場になるのですけれども、できるだけ専業主婦をされていた方なども働きやすい場をつくりたいということで、今、I T系とか、電話を受付するような業種の企業誘致も積極的に大分市はしております。できるだけ、女性の雇用を生み出すという視点で産業の振興はしているところでございますので、今日いただいたご意見でこの項目ももし一つで出せるようであれば、先ほどのU I Jターンも同じで、ほかの農林水産のところにも書いているのですけれども、何か一つ項目ができれば、議論していきたいと考えています。</p> <p>それから、K P Iのことで非常に苦戦しているところもでございます。確かに関アジ、関サバも、漁師さんや就労者の方々は大変苦戦をしております。それと各地域、日本全国でブランド魚が結構出てきたものですから、佐賀関の漁協の方も大変苦慮されています。これもまた厳しいK P Iとして設定を残すのか、それか、ほかのものを差しかえるのかということも含めてですね。</p> <p>それとこの総合戦略も総合計画もそうなのですけども、施策には進捗管理するための二次的とか、三次的とかいう指標も議論をしております。その部分も、今回、総合計画の改訂に合わせて、データ集のような形で、後追いでフォローができるような形で進めていこうということで進めておりますので、K P I目標値の設定につきましても、また、庁内で少し検討させていただきたいと考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>委員</p>	<p>ちょっと追加で。</p> <p>今のそのブランド魚種の漁獲量なのですけども、例えば、8ページで農林水産業になると量じゃないのですよね。算出額とか。そもそも量でいくと、魚というのは自然の回遊魚でもありますし、そこを目標にすると、かなり部署のほうも達成ができない。そもそも自分たちの手では達成できないものではないかなと思うので、そういう見方での見直しもあってもいいかなと思いました。</p>
<p>部会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>ほかにご質問、ご意見ございませんでしょうか。</p>

委員

すみません。自分の関係もあるものですから以前からお伺いしたかったのですが、待機児童数の算出方法ですね。これ、何かやり方があって、国の基準等でもやられているというのはよくわかるのですが、保育園を運営している実感から言いますと、一時預かりという、保育所に正式に入れられないお子さんたちが週の決まった日数だけ利用できるというような制度があって、ある意味セーフティーガードみたいなものだろうと私は思っているのですね。今の時代においては。

一昨年、うちは保育所を1カ所建てかえました。定員も大幅に増やしました。一時利用者の数も一時的にちょっと落ちたのですが、それから今、2年ほど経過して、一時利用数がほぼ倍、倍と増えてきております。これは潜在的な待機児童だというふうに我々は理解しているのですね、保育所経営者としてはですね。

そうすると、今待機児童数が25人とか言われると、それはどこからそんなことになっているのかと。逆に言えば、ほんとうにお母さんたちを安心させたいと思うのであれば、ここはマイナス表記をほんとうはするぐらいないと、お母さんたちの安心にはつながらない。待機児童数ゼロじゃないのだろうなど。要は、大分市全体でこれぐらいキャパがあるよというくらいまで、ほんとうは目標数値としてあっても良いのではないかと。

経営者としては、そうすると地域によっては児童が少なくなってしまって保育所の経営の問題になってくるので、しゃれにならないところもあるんですけども、何かその辺、まず、待機児童の数字を、ほんとうに世の中のお母さんたちの不安を解消し、ほんとうに子供たちを産み、育てやすくするような大分市をつくるという視点で待機児童数の統計をとっているかどうかというところをまずお伺いしたい。

それと、目標数値の設定も、ほんとうにお母さんたちがそれを見たときに、「ああ、これならいつ子供が増えても、あるいは自分が働きに出るようになって、これなら安心だね、大分市」と思えるような数字を考えていくとか、その辺をぜひ質問を兼ねて、現状のお話を聞ければなど思うんですけれども、いかがでしょうか。

事務局

これは他部会にも関わることなので、他部会のほうにも伝えさせていただいて文書で回答させていただきたいと思うんですけれども、一応、先ほど言われたとおり、国の算出基準で全国一律で、各都市で待機児童の関係は算出をしております。

ただ、ここ近年、施設数も定員もずっと大分市は頑張ってます。ただ、これから不安になるのが、先ほど言われたように地域ごとの経営のことが今、議論になってきております。これからは産み育てる方々に寄り添うような形の、何が一番ニーズに合っているのか、多分いろんなパターンがあると思うんですよね。

認定こども園の話もございますし、保育園、保育所を充実させることもありますし、当然、一時預かりのようなどころとか、あらゆるお母さん方のニーズを捉えて、大分市のほうも今、子どもすこやか部ということで、独立した部でしっかりと受けとめられる体制で進めております。そこのあたりはまた個別計

<p>委員</p>	<p>画の方が今年改訂になると思いますので、その中でしっかりと審議させていただきたいとは考えております。基本的には、待機児童の発表は国の一律基準となっております。</p> <p>それと、ニーズは各保育所でも細かくお聞きしていますし、認可の保育園さんにもお手伝いいただきながら、いろんなニーズを集めて進めさせていただいているのが現状でございます。よろしく願いいたします。</p> <p>認可保育園を経営している身として、ほんとうに大分市さんには大変お世話になっているというところがあるのですが、将来的に問題解決をしていくための諸施策であり計画だろうと思います。そうすると、発表される数値と、実際に子育てをしている、あるいはこれから子育てをしていこうという世代に対しては、体感と重なるようなものじゃないとやっぱり共感力がないと思うのですね。ああ、これだったら安心だねと思ってもらえるような、その数字。</p> <p>国の基準もよく理解できるのです。それはぜひ枝葉の部分で、発信していくところで何かしら大分市さんなりの魅力のある数字を出していかないと、最終的に人口が増えていく世の中に導くというのはなかなか大変だと思いますので、ぜひその辺はお願いしたいと思います。</p> <p>もちろん経営する側も、今年度も大分市さんのご協力もいただきながら一軒建てかえをやって定員増を図って、しっかり受け入れるところは作っていきますので。</p>
<p>部会長</p>	<p>ほかにご質問、ご意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>(なしの声)</p>
<p>部会長</p>	<p>これ以上、ご質問がないということでありましたら、事務局のほうに本件の整理をお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは、こちらのほうも多くの委員さんからご意見いただきましたので、また、先ほどの表に整理した上で、次回までにきっちりご回答させていただきますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>部会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、3のその他について、事務局のほうからご説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>本日はご議論いただきまして、まことにありがとうございます。</p> <p>その他というところで、次回の第3回目、第4回目以降の日程の調整についてご連絡を申し上げたいと思っております。</p> <p>今日お配りしておりますA4横の分に、第3回目と第4回目の日程の調整の表をつくらせていただいております。こちらも前回と同じように、ご都合が悪い時間帯に「×」をしていただきまして、事務局のほうまでご回答いただければと思います。今日もしわかれば、今日書いていただいでご提出でも結構ですし、また後日、お電話でもファクスでもご回答いただければと思います。また、</p>

	<p>日程が決まり次第、すぐ委員の皆様にはお知らせをしたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>また、次回につきましては、基本計画の総論の中に入っていきたいと思っておりますけれども、その前段として、今日、出たご意見、また、本日ご欠席されている委員さんのご意見も含めてご披露したいと考えておりますので、それが終わってから、基本計画そのものの中に入っていきたいと思っております。よろしく願いいたします。</p> <p>以上でございます。</p>
部会長	<p>この件につきまして、何かご質問などよろしいですかね。</p> <p>(なしの声)</p>
部会長	<p>それでは、ほかに事務局のほうから特に連絡事項等はございませんでしょうか。</p>
事務局	<p>大丈夫です。</p>
部会長	<p>それでは、以上をもちまして議事を終了させていただきます。事務局のほうにお返しします。ありがとうございました。</p>
事務局	<p>島岡先生、本日は議事進行していただき、大変ありがとうございます。それでは、これをもちまして第2回の総務部会は終了したいと思います。また、本日はまことにありがとうございました。お疲れさまでした。</p>